

## 大和言葉での数え方と助数詞（その二）

（その一）に続き後掲の一覧表「日本語での数え方一覧」を参照ください。

### ⑦助数詞のつく大和言葉

注、（その一）よりの連番で⑦です  
古来、大和言葉では数字のみを数える時はひと・ふた・み・・・・・じゅうと表音していました。

日本では数を数える時には数詞（数字）の後に度量衡（尺寸間里 升斗石匁貫）の単位とは別にほんどの物（人、日にちにも）の数の後に、形状、性質、様態を伝達する助数詞が付きます。

例えば、一丁、一杯、二匹、一枚とか三個です。これは漢数字の後の語に付ける例です。

大和言葉での数詞の後にも助数詞は付きます。

例えば、ひとひら（一枚）、ふたくち（二口）、みすじ（三筋）、ななたび（七度）、ここのか（九日）です。

漠然として数える時には「つ」を付けます。

ひとつ・ふたつ・みつつ・よつつ・いつつ・むつつ・ななつ・やつつ・ここのかつ・と（とお）

一個・二個・三個・四個・・・・・と続く漢数字に対応する大和言葉です。

この大和言葉での数え方（大和数詞）は漢数字とその呉音の表音が主流となる中で、すたれ行きますが、現在でも残っているものがあります。

例をあげます。

#### ○人数

ひとり・ふたりで以後は三人・四人・五人・六人・・・・・十人と漢数字とその助数詞の「人一にん」が続きます。

古代の一人は「ひと たり」、二人は「ふた たり」・三人は「み たり」、四人は「よ たり」と順次大和数詞に「たり」を付して表音していましたが、「ひとりは」は「ひとり」、「ふたり」は「ふたり」と表音しやすいように転じさせました。

大和数詞の残存は「ひとり」・「ふたり」しか残らず。言いやすい漢数字との助数詞の「人一にん」で表音するようになつて行きます。今日でもそうですね。

### ○年数

「とせ」が後に付きます。

一年は「ひと とせ」、二年は「ふた とせ」、三年は「み とせ」・・・・・。百年は百歳で「ももとせ」、千年は千歳で「ちとせ」と続きます。「もも」も「ち」も大きな数字を表すおめでたい意味でも使われます。

漢字は「歳」を使います。

千歳（ちとせ）あめで使いますが、今日ではあまり使いませんかね。

### ○年齢

一歳は「ひとつ」、二歳は「ふたつ」、三歳は「みつつ」・・・・・と続き、十歳は「と」で十一歳は「と あまり ひとつ」、十二は「と あまり ふたつ」と十九の「と あまり ここにつ」です。

二十歳は「はた ち」。三十歳は「み そ じ」、四十歳は「よ そ じ」と続きます。

百歳は「もも じ」又は「ももとせ」です。

「はた」（二十）、「みそ」（三十）、「よそ」（四十）も大和数詞でこの後の語に年齢を表す助数詞「ち・じ」が付きます。

現在は「はたち」（二十歳）とか「みそじ」（三十路）が使われるぐらいでしょか。

### ○日にち

一日は「ついたち」、二日は「ふつ か」、三日は「みつ か」、四日は「よつ か」、五日「いつ か」、六日は「むい か」、七日は「なぬか」、八日は「よう か」で九日は「ここのか」、十日は「（とお か）」で、「ふつか」からは大和数詞の後に日にちを表す「か」の助数詞が付きます。

「ついたち」は月立ちの意味といわれています。

一日は江戸時代まで「朔日」（サクジツ）とも言われました。

「むいか」は「むつか」、「むゆか」からの転じ、「なぬか」は「なのか」から転じたものです。

「ようか」（八日）は「やか」、「やうか」から転じたもので、「はつか」（二〇日）は「はたか」からのてんじたものでしよう。いずれも表音しやすくするためでしよう。

十一日以降は「と あまり ついたち」、「と あまり ふつ か」と言うところですが 現在十一日以後は「ジユウイチニチ」と漢数字に「ニチ」の助数詞を付け呉音読みの表音をします。二〇日は「ニジユウニチ」と言わず「はつか」です。

### ○稻。花

一束は「ひと たば」、二束は「ふた たば」、三束は「み たば」、四束は「よ たば」・・・・と大和数詞に助数詞の「たば」が付き、五束以後は「ゴたば」・「ロク たば」・・・・と漢数字の表音に助数詞の「たば」を付けます。

大和数詞と助数詞は今でも一部残つており、日常会話でもつかいます。しかしある一定の数字からは漢数字とその助数詞の表音（呉音）に変えます。

そこでもし大和数詞と助数詞で桁数の大きい数字を表音したらどうなるかの例をあげます。

稻 一千六百七十三束（1673束）

「いね ち あまり むほ あまり ななそ あまり み たば」

漢数字の表音では

「イネ セン ロツピヤク シチユジユウ サン タバ」

やはり漢数字の方が書きやすく、読みやすいですね。

### ⑧助数詞のつく漢数字

漢数字とその助数詞について語ります。

助数詞は漢数字とともに中国より伝来したといわれています。

現在、中国では量子と言います。名称は同じものもありますし異なる名称もあります。

漢数字の後に付ける助数詞の方が大和数詞とその助数詞より多いのです。

## 例一

個（こ）—形あるもの

一個・二個・三個・四個・五個・六個・七個・八個・九個・十個

頭（とう）—牛、馬、蝶等

一頭・二頭・三頭・四頭・五頭・六頭・七頭・八頭・九頭・十頭

台（だい）—大型の家具や楽器、自動車、機械など

一台・二台・三台・四台・五台・六台・七台・八台・九台・十台

枚（まい）—紙、板、皿等平たい物。

一枚・二枚・三枚・四枚・五枚・六枚・七枚・八枚・九枚

十枚

脚（きやく）—脚のある家具、机、椅子等

一脚・二脚・三脚・四脚・五脚・六脚・七脚・八脚・九脚・十脚

助数詞を付けない漢数字の表音は、一は「イチ」ですが「いつ」、四は「シ」ですが、助数詞が付きますと「よん」と言います。

七は呉音では「シチ」ですが大和数詞の「なな＝な」から借用して「なな」と言います。九は呉音では「ク」ですが漢音では「きゅう」と言います。いずれも漢数字と助数詞の連結で滑らかに表音させるために日本で転訛させたものです。

## 例二

匹（ひき）—魚・動物など

一匹・二匹・三匹・四匹・五四・六匹・七匹・八匹・九匹・十四匹

本（ほん）—細長い物・手紙・芝居等

一本・二本・三本・四本・五本・六本・七本・八本・九本・十本

杯（はい）—さかずき・ふね・いか等

一杯・二杯・三杯・四杯・五杯・六杯・七杯・八杯・九杯・十杯

「は」から始まる助数詞は一、三、六、八、十に付くときは濁音、半濁音となります。この方が連結が滑らかなのでしょう。

漢数字とアラビア数字との混合型で表示されことが現在ままあります。

例

(漢数字)	(アラビア数字型漢数字)	(アラビア数字)
一 百 三 十 個	一 一 三 〇 個 一	2 3 0 個

### ⑨助数詞のない英語

英語には助数詞はありません。もちろん度量衡（メートル・リットル・グラム等の単位は後に付けます。

○物、日、人—数え方は頭に a, one, two, three……が付き名刺がつながり、名刺の語尾に s 又は複数名詞となります。

- a book, two books, three books…….
- a man, two men, three men……..
- one day, two days, three days……..

○助数詞に似た表現もあります。

年齢—例えば 50 歳は fifty years old

これは年齢と年との区別からでしゃべ(fifty years もいえば 50 年間)

水物—入れ物を頭に付けまか。 One cup of coffee

紙—a sheet of paper りれば paper には新聞とか書類の意味があるけれどから の区別でしゃべ。

いぢれにしましても

、漢数字と大和数詞につく多くの助数詞を覚えなければなりません。その表音は一応規則正しのですが、不規則などいろあります。

現在、日本人は親から、学校で教えられ、難なく話します。しかし、外国人が日本語を習う時は大変だと思います。

以上

11011六年一月十一日

梅  
一  
声

日本語での数え方一覧

①算用数字	漢数字				⑥大和言葉の数詞	⑦助数詞のつく大和言葉 個数の数え方・語尾に「つ」
	②漢数字	③漢数字大字	④呉音（音読み）	⑤変形音		
1	一	壱	イチ	イッ	ひと=ひ	ひとつ
2	二	弐	ニ		ふた=ふ	ふたつ
3	三	參	サン		み	みっつ
4	四	肆	シ	ヨン	よ	よっつ
5	五	伍	ゴ		いつ=い	いつつ
6	六	陸	ロク		む	むっつ
7	七	漆	シチ	ナナ	なな=な	ななつ
8	八	捌	ハチ		や	やっつ
9	九	玖	ク	キュウ（漢音）	ここの=こ	ここのつ
10	十	拾	ジュウ	ジュツ	と（とお）	と（とお）
11	十一		ジュウイチ			と あまり ひとつ
20	二十（廿）		ニジュウ			はた
21	二十一		ニジュウイチ			はた あまり ひとつ
30	三十（卅）		サンジュウ			みそ
31	三十一		サンジュウイチ			みそ あまり ひとつ

①算用数字	漢数字				⑥大和言葉の数詞	⑦助数詞のつく大和言葉 個数の数え方・語尾に「つ」
	②漢数字	③漢数字大字	④吳音（音読み）	⑤変形音		
200	二百		ニヒヤク			ふたほ
300	三百		サンビヤク			みほ
1000	千	仟	セン			ち
2000	二千		ニセン			ふたち
10000	万		マン			よろず
100000000	億		オク			おく

⑧助数詞のつく漢数字—本文記述

⑨助数詞のない英語—本文記述